8月6日、長らくターミナルであったJさんが息を引き取られました。7月末から水分も摂れなくなっており、毎日皆が声をかけ見守る中で、穏やかな最期を迎えられました。

ターミナル期に入ってからは和室に移っていただき、ご家族も縁側から入って会えるようにしていました。Jさんはいつも皆に「ありがとう」と言ってくれ、苦しむ様子が見られなかったことが救いでした。昼間は戸を開け放ち、Jさんはみんなの体操の様子を見ながら自分も手を動かしたり、歌声に耳を済ませたりしていました。

「戦争がなかったら学校に行けたのに」といつも口にしていたJさん、広島原爆の日の朝に亡くなったことは偶然ではないような気がします。

一人一人がお別れの挨拶をしました。並んでJさんの好きだった歌をうたいながら出棺を見送りました。

娘さんからは、「吾も紅で本当に良かった、皆さんに温かく見送ってもらい、母は生ききったと思う。悔いのない晴れ晴れとした顔で、感謝している」と言っていただけました。

8月14日はかねてより要望のあった「北条ふわり」へ。砂浜に立って海を見、ソフトクリームを食べる人、買い物をする人、皆さん喜ばれていました。17日は状ヶ淵公園へ涼を求めてお出かけしました。

8月15日は戦争体験を語り、終戦記念日としました。大正生まれのKさんが、初めて語る終戦の思い出に皆が真剣に聞き入っていました。

また、Bさんのお誕生会では職員から生演奏とフラメンコのプレゼント。Iさんのお誕生会では得意の「社交ダンス」を披露していただき、あざやかなステップを。各人のお誕生日はその人が主役、好物を提供して皆でお祝いします。

8 月 28 日、恒例の夏祭りを開催。各職員が「かき氷・花火・たこやき・綿あめ・スイカ、飲み物」など係を決めて準備をします。かき氷を利用者さんと買いに行き、色とりどりのシロップを並べたり、利用者さんにたこ焼きを焼いてもらったり。ボランティアさんからカレーライスの差し入れもあり、にぎやかな屋台に。「食べたいものをどうぞ～」と声をかけると、皆さんたちまち行列を作るほどの意欲でした！男性も女性も浴衣を着て華やかな雰囲気の中、お祭りは楽しく進みます。夕闇迫るころには「炭坑節、野球拳音頭」の盆踊りの輪を作り、しめくくりは線香花火・吹上花火をして夏を見送りました。例年になく涼しくて良いお祭り日和。天国から J さんが見ていてくれたかな。